

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成31年4月25日(2019.4.25)

【公表番号】特表2018-510717(P2018-510717A)

【公表日】平成30年4月19日(2018.4.19)

【年通号数】公開・登録公報2018-015

【出願番号】特願2017-550629(P2017-550629)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/29 (2006.01)

A 6 1 B 1/018 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/29

A 6 1 B 1/018 5 1 5

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月13日(2019.3.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

上述したように、内視鏡把持装置10は、フォーク18と、第1顎部20と、第2顎部22とを備える。各顎部は、前歯と後歯を含む一組の歯を有する。図1、図3及び図4に示すように、第1顎部20と第2顎部22は、フォーク18上のピボット点50の周りに取り付けられる。顎部20, 22は、例えば、図3に示す開放位置と、例えば、図4に示す閉鎖位置との間で、スライダ34をリング36に対して移動することで、操作可能である。顎部20, 22は、当該分野で公知の任意の適切な材料で構成されても良い。例えば、顎部は、ステンレス鋼で構成されてもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

顎部20, 22は、各フォーク上のピボット点50aを中心に旋回するように取り付けられる。上述したように、リベット24は、第1顎部20の開口部50bと第2顎部22の開口部50cを介して取り付けられる。顎部20, 22は、それぞれ、ピボット点から近位に延在する舌部130, 132を備える。本発明の実施において、他の取付構造を使用できることは、当業者に明らかである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

図11及び図12を参照すると、顎部の中心線CLは、ピボット点50cを通る軸として定義される。後歯の特徴は、この右側面図と左側面図において理解することができる。前歯80は、中心線CLを超えて延在し、後歯90a, 90b, 90cは、中心線CLま

でだけ延在する。中心線 C L で接触する 2 組の後歯が、図 6 に示されている。図に示すように、第 1 顎部 2 0 の後歯は、顎部の中心線 C L において、第 2 顎部 2 2 の後歯 9 0 a , 9 0 b , 9 0 c と接する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

さらに、図 1 1 に最も良く示すように、各顎部の後歯は、有利に形成される。図 1 1 は、上側顎部 2 2 の右側面図である。上側顎部は、3 列の後歯 9 0 a、9 0 b、9 0 c を有する。図から明らかなように、各後歯は、後傾した、または突端から顎部の遠位先端に向かって、下方に傾斜している前面 (front profile) を有する。上側顎部 2 2 は、本質的に丸みを有しない各歯 9 0 a、9 0 b、9 0 c の頂部に、突端 9 2 a、9 2 b、9 2 c を形成するように機械加工されている。後歯の尖った形状のエッジは、例えば、ステント、チューブ、または他の種類のプラスチックなどの柔らかいプラスチック製の異物を、挟持するのを促進する。

【手続補正 5】

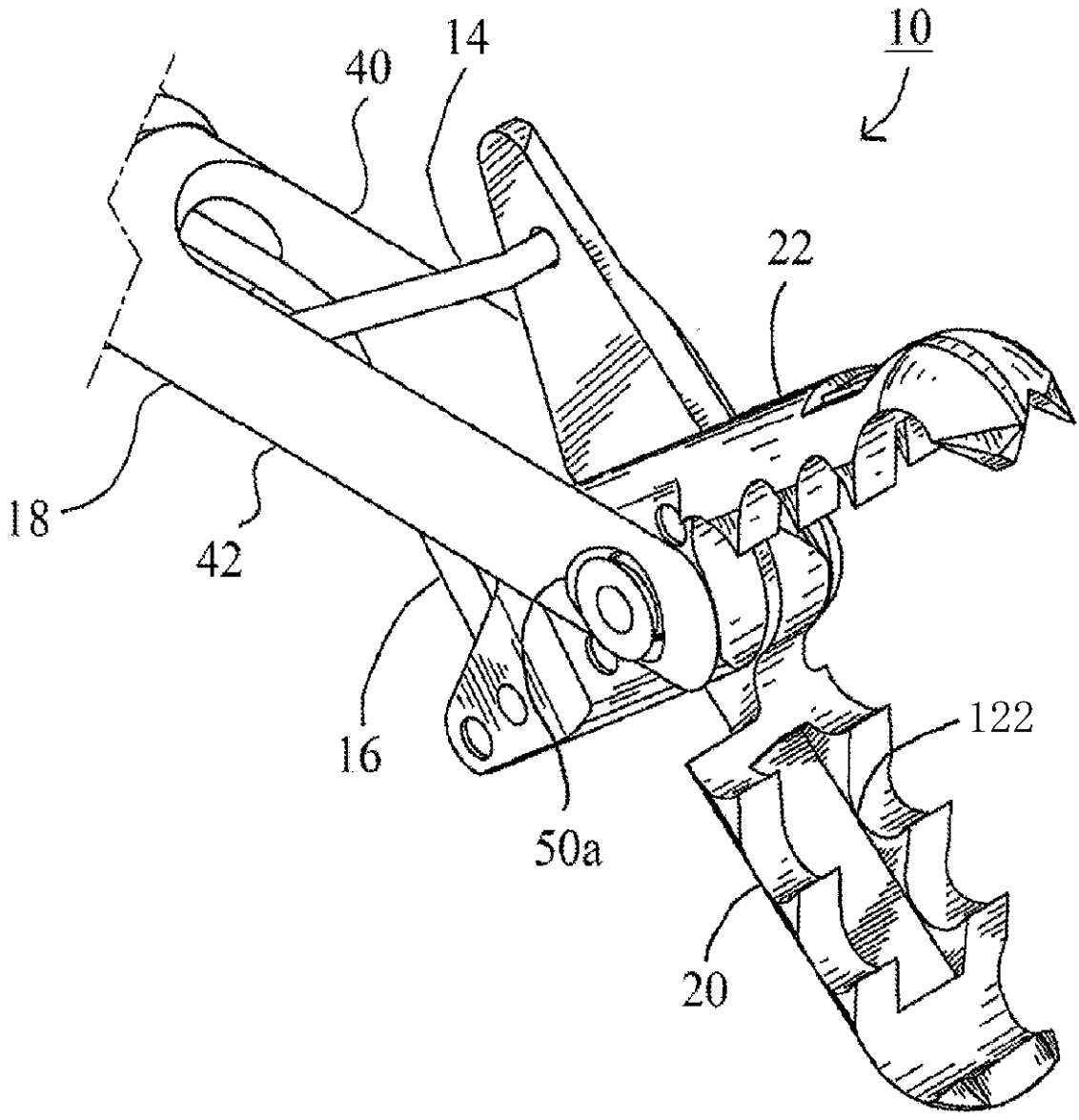
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図3】



专利名称(译)	内视镜把持装置		
公开(公告)号	JP2018510717A5	公开(公告)日	2019-04-25
申请号	JP2017550629	申请日	2016-03-25
[标]申请(专利权)人(译)	美国最终复制集团股份有限公司		
申请(专利权)人(译)	美国最终复制集团公司		
[标]发明人	ミケリーニジョセフ ウスペンスキアレクシス ストレイフアリソン ジョンキースアール		
发明人	ミケリーニ ジョセフ ウスペンスキ アレクシス ストレイフ アリソン ジョン キース アール.		
IPC分类号	A61B17/29 A61B1/018		
CPC分类号	A61B17/29 A61B17/22031 A61B2017/22035 A61B2017/2926		
FI分类号	A61B17/29 A61B1/018.515		
F-TERM分类号	4C160/GG24 4C160/GG36 4C160/NN03 4C161/GG15 4C161/JJ06 4C161/JJ11		
优先权	62/138757 2015-03-26 US		
其他公开文献	JP2018510717A		

摘要(译)

技术领域本主题涉及一种用于捕捉对象体内的对象的内窥镜把持装置。该设备包括一个叉子和两个围绕叉子的枢轴点可枢转地安装并可在预定的关闭位置和预定的打开位置之间移动的夹爪。每个颚包括靠近颚的远端的前牙。两个夹爪的前齿构造当夹爪处于闭合位置时基本上彼此接合。处于关闭位置的钳口的大致接合的前齿形成大致半球形的远侧尖端。

